

Part 1

ISO 45001は人を幸せにするためのツール 企業として取り組まない手はない

取材先 ISO/TC283国内審議委員会 委員長
明治大学 名誉教授 向殿 政男 氏

2018年にISO 45001(労働安全衛生マネジメントシステム、以下OHSMS)が発行されて以降、ISO/TC283(労働安全衛生マネジメント関係の規格審議を行うISOの技術委員会)では、OHSMS関連規格の開発が積極的に行われている。2020年12月にはCOVID-19対応のガイドラインであるISO/PAS 45005が、今年6月には心理社会的リスク管理のガイドラインであるISO 45003が発行された。TC283の最近の規格開発状況とその背景にある労働安全衛生のトレンド、OHSMSへの取組みの重要性などについて、ISO/TC283国内審議委員会委員長・向殿政男氏から話を聞いた。(本誌編集部)

国際規格の議論が「メンタルの安全」へ移行してきた

—ISO 45001発行後、TC283ではどのような規格開発に取り組んでいますか。

向殿 現在、TC283には3つのWG(作業グループ)と3つのTG(タスクグループ)があって、規格開発に関するさまざまな議論が行われています。ISO 45001に続いて、すでに2つの規格が発行されています。まず、2020年10月にISO/PAS 45005が発行されました。これは、COVID-19パンデミック下での安

全な労働のための一般指針です。IS(国際規格)としてではなく、PAS(公開仕様書)として発行されました。続いて、職場における精神的な安全衛生—心理社会的リスク管理の指針として、ISO 45003が今年6月に発行されました。この規格では、これまでのケガなどに対する安全から、メンタルな症状に対する安全へと、労働安全衛生に関する議論が移行してきたところがポイントになります。この議論には、日本から産業医科大学・森晃爾教授が参加し、労働災害だけでなく自然災害においても、被災した従業員の精神的な安全衛生について規格で対応すべきで

あると提案し、その内容が規格に反映されました。

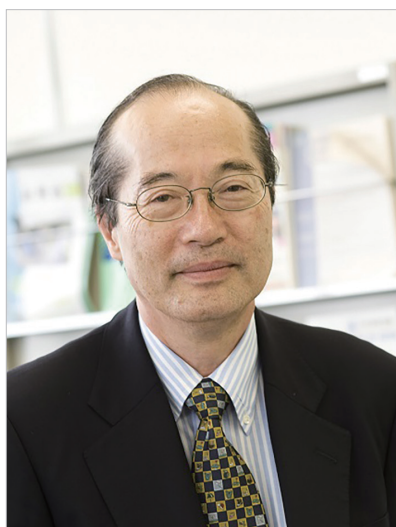
また、ISO 45001が発行されたものの、この規格を実施するにあたり、分かりにくいところがたくさんあるという声が、開発途上国だけでなく先進国からも挙がっていることから、ISO 45001の実施のための一般的なガイドラインを作ろうということになりました。現在、DIS(国際規格案)の段階で、ISO/DIS 45002として開発中です。

さらに規格化のWD(作業文書)段階のものが2つあります。1つは、OHSMSがきちんと実施できているかどうかを評価する、パフォーマンス評価のガイドライン規格であるISO/WD 45004であり、もう1つは、感染症の予防と管理のガイドライン規格であるISO/WD 45006です。

—ISO/WD 45006は、COVID-19に限らず、感染症すべてをターゲットにした規格ですか。

向殿 すでにご紹介したようにCOVID-19だけを対象にした規格

を発行したのですが、脅威になるのはCOVID-19だけではないので、感染症全般をターゲットにした規格を検討することになりました。感染症対策は、COVID-19への各国の対応を見ても分かるように、国によって政策がかなり異なるので、ISOで一概にこうしなさいと言えないところもあるのですが、感染症は1つの国にとどまる問題ではなく、国際的に取り組むべき課題であるので、今回ISOで取り組むことになったのです。



向殿 政男 (むかいどの まさお)

ISO/TC283国内審議委員会 委員長
明治大学 名誉教授

明治大学大学院工学研究科電気工学専攻博士課程修了。工学博士。明治大学理工学部教授を経て、現在、明治大学名誉教授。「安全学」のエキスパートとして、機械安全、製品安全、労働安全、消費者安全などの研究に従事。官公庁の審議委員なども多数務めている。著書として、『Safety 2.0 とは何か? 隔離の安全から協調安全へ』(中央労働災害防止協会 2019年)、『機械・設備のリスク低減技術』(日本規格協会 2013年)、『日本の安全文化』(研成社 2013年)他多数。2013年からISO/TC283(当初はPC283)国内審議委員会委員長を務める。

ISO/TC283で発行した規格と開発中の規格

規格名	開発段階
ISO 45001:2018	IS
Occupational health and safety management systems — Requirements with guidance for use (労働安全衛生マネジメントシステム — 要求事項及び利用の手引)	2018年6月発行
ISO/PAS 45005:2020	PAS
Occupational health and safety management — General guidelines for safe working during the COVID-19 pandemic (労働安全衛生マネジメント — COVID-19 パンデミック下の安全な労働のための一般指針)	2020年12月発行
ISO 45003:2021	IS
Occupational health and safety management — Psychological health and safety at work — Guidelines for managing psychosocial risks (労働安全衛生マネジメント — 職場での心理的健康と安全 — 心理社会的リスクを管理するためのガイドライン)	2021年6月発行
ISO/DIS 45002	DIS
Occupational health and safety management systems — General guidelines for the implementation of ISO 45001:2018 (労働安全衛生マネジメントシステム — ISO 45001:2018 の実施のための一般指針)	
ISO/WD 45004	WD
Occupational health and safety management — Guidelines on performance evaluation (労働安全衛生マネジメント — パフォーマンス評価の指針)	
ISO/WD 45006	WD
OH&S — Preventing and managing infectious diseases — Guidelines for organizations (労働安全衛生マネジメント — 感染症の予防と管理 — 組織のための指針)	

(IS：国際規格、PAS：公開仕様書、DIS：国際規格案、WD：作業原案)



ISOが提供しているYouTubeでのISO 45003の紹介ビデオ

ー日本では、コロナ禍によってテレワークが急速に進展しましたが、働く人のメンタルにも大きな影響を与えていると思います。テレワークによるメンタル問題についてもISOで議論されていますか。

向殿 はい、ISO 45003で取り上げられています。テレワークが増えて来ると、職場が各自宅に散らばり、企業としては安全衛生管理がしづらくなります。また、働く人が孤立しますので、精神衛生管理が必要になってきます。そういう意味で、ISO 45003は、テレワークによる孤立も想定した精神衛生管理の規格になっています。

OHSMS規格への関心は世界で高まっているか？

ーISO 45001発行後に、TC283でこのようにさまざまな規格が開発されているということは、OHSMS規格への関心が世界で非常に高まっていると考えればよろしいでしょうか。

向殿 OHSMS規格への関心が非常に高まっているという見方もあれば、そうでもないという見方もありま

す。労働安全衛生は世界的に見ると新しいフェーズに入っていて、ケガに対する安全だけでなく、メンタルケア、健康やウェルビーイングの実現といった領域にまで広がっています。その中でツールとして、ISO 45001とISO 45002は非常に有効なので積極的に使おうという動きが世界で広がっているのは確かです。

ー「そうでもない」と考える方々は、どのような理由から？

向殿 おそらくもっと広がっているのではないかというお考えだと思います。ISO 9001のように、世界中にどーんと広がると期待していたのでしょう。ですが、ISO 45001の認証を取っていないと、企業としてビジネスができないという状況には、まだなっていませんから。

ー日本では、規格開発段階では、TC283に積極的にコメントを出すなど、盛り上がりを見せていると思いますが。

向殿 確かに日本の国内審議委員会は規格づくりに大いに貢献していると思います。規格開発に対しては、経済産業者や厚生労働省がバック

アップしてくれますし、審議においては日本規格協会や中央労働災害防止協会が一所懸命対応してくれます。ただ、規格は発行されておしまいではありません。発行後に普及させなければなりません。この普及についても、関係者の方々にもっとご協力をいただきたいと思います。

労働安全衛生のターゲットは機械側から人間側へ

ー今後の労働安全衛生の動向と国際規格化について、どのようにお考えですか。

向殿 今まで職場での安全については、機械設備で起きる事故に対してどう作業者の安全を守るかという「機械安全」を主に考えて来ました。実際、機械設備による事故は減少してきており、これは機械安全の取組みの成果だと思います。

ところが、逆に増えているのが、人の行動に基づく事故です。人間側が作業の手順を間違えるなど、人の行動の誤りによる労働災害が増えているのです。

ですから、そろそろ労働安全衛生の中身も、機械安全だけでなく、先ほどご紹介したメンタルへの対応も含めて、人間の行動に対する労働安全衛生に移ってくるのではないかと思います。労働安全衛生のターゲットが、機械側から人間側へシフトしてきている時代だと思います。

ISO規格の開発も、ISO 45003やISO/WD 45006などの議論を

みていますと、今述べた方向に進んでいます。ケガへの対応だけでなく、メンタル、健康、ウェルビーイングへ関心が移行しています。

日本はもともと、「安全」だけでなく「安全・安心」に取り組んで来ました。「安心」というのは人間側の話です。ですから、人間側の分野は、日本は得意なんです。

日本でも企業のトップによる労働安全衛生のフォーラムを作してほしい

ーISO 45001普及に向けて、日本企業にメッセージをお願いします。

向殿 日本のISO 45001認証数は、JAB(日本適合性認定協会)が公表している調査結果では約2,000件(2020年12月末時点、JAB非認定の認証件数も含む)で、あまり数は伸びていません。ですが、実際にISO 45001認証企業に聞くと、「OHSMSを導入することで労働災害の件数が減った」という回答が多いのです。OHSMSを導入することで、労働安全衛生活動のレベルは確実に向上すると考えてよいと思います。

このような導入効果が出ているのに、なぜISO 45001認証はあまり伸びないのか。おそらく、審査で細かい指摘をされるのがイヤだとか、自分たちは法律を守ってきちんとやっているのだから別に認証をとらなくてもいいだろうとか、そういう理由が多いと思います。ですが、自分たちで取

り組んでいればそれでいいと考えていると、やはり独りよがりな取組みになってしまうものです。第三者に見てもらうことで、自分たちの取組みの良い点や悪い点が分かることもあると思います。

ISO 45001の普及で最も重要なことは、企業のトップの理解です。OHSMSに取り組むことによって現場で事故が起きないようにすることが、企業の生産性向上に寄与することをトップに理解していただきたいと思います。事故がなくなり働く人に幸せになってもらうことが、結果的に企業の業績向上につながります。OHSMSにかける人・モノ・カネは、経営にフィードバックされます。そのWin-Winの関係を経営者に理解していただいて、ぜひ積極的にISO 45001に取り組んでいただきたいと思います。

例えば、欧州では企業のトップが集まって労働安全衛生に関するフォーラムを作っています。そこで、企業における労働安全衛生に対する取組みはどのような状況か、今後どのような取組みが必要かについて議論しています。大手企業が率先して、労働安全衛生に関する仲間づくりを実施しているのです。

労働安全衛生の取組みでは、他に学ぶことが非常に重要です。例えば、「予想外の事故」というのがありますが、自社では予想外でも、他社ではすでに起きていることかもしれないので、その事例を学ぶことができるわけです。日本でもフォーラムを作って、トップ自身が他社から学ぶ機会を作ってほしいと思います。

ーOHSMSに取り組むことが、結果的に企業の業績向上につながることを示すデータがあるのですか。

向殿 企業が労働安全衛生活動にかけたお金に対して、その活動によって事故を避けることができたことについての効果は、欧州は2.2倍、日本は2.7倍のフィードバックがあるというデータがあります。ただ、これはアンケート調査の結果によるものなので、もう少し科学的根拠に基づいたデータにして、日本に広めたいと考えています。また、これもアンケート調査結果ですが、OHSMSを導入した企業の従業員に聞くと、導入前と後とでは安心感が違うと言っています。この安心感というのは、メンタル面でも非常に重要です。

ですから、費用対効果もあるし、安心感も持てるし、労働災害も減少するというメリットがOHSMSにはあるわけです。これまで「安全はコストだ」と思われていたのですが、それは逆で、安全にお金をかけると結果的に儲かるのです。

世界の人口を70億人としますと、その半分以上が労働に何らかの形で関わっています。その働いている人の安全・健康・幸せを願うことは、社会全体の安全・健康・幸せにつながると思います。企業が自分の会社で働く人たちの安全・健康・幸せに取り組んでいただくことは、将来の日本のためにも、世界のためにもなります。ISO 45001は人を幸せにするためのツールですから、企業として取り組まない手はないですよ。

(取材日:2021年9月1日)